

# ● 町民の広場

## 高校生クラブに参加して

高校生クラブ代表  
志布志高等学校3年(档ヶ山集落)

宮下喜弥

(学年は旧学年で、現在は福岡県内の大学に在学中です。)



「大崎町高校生クラブ」この名前を初めて聞かれた方、以前お聞きになられた方いらっしゃると思いますが、私たちの町大崎町には、町内在住の高校生を対象とした高校生クラブと言うグループがあります。活動内容の一つに、町の行事への参加があります。今までは経験し、知ることのなかった舞台の裏側を見ることができました。そこには、何人も人の協力や支えがありました。二つ目には、清掃ボランティアも行っています。私たちが清掃したのは大崎町の一部にすぎません。それにも関わらず、ゴミ袋は何十袋にもなりました。「なぜ他人の

捨てたゴミを拾わないといけないの？」多くのゴミを前に憤りすら感じました。しかし誰かがやらないといけないことであり、この現状を周りに人に伝えることに意味があるのだと思いました。実際に自分で行動し、体験したからこそ分かったことでした。

ここで高校生クラブの活動として太鼓グループ「響」について紹介します。現在男女合わせて26名ほどで活動しています。

練習中の雰囲気は明るく、笑顔が絶えません。失敗やプレッシャーを経験し、技術的にも精神的にも成長しています。人前に立つ度胸や楽しさを味わえるのは「響」ならではの活動です。私がこのような活動に参加するようになったのは、高校2年生のときからです。実際に活動に加わることで、学校ではできない多くの事を経験し学ぶことができました。そこでは多くの出会いがありました。活動していく中でいくつもの話を聞き、たくさんの人や事柄に影響されました。一人では出来ないこともみんながいたからこそ実行でき、楽しさも感動も共有しあえたのです。また、活動していく上で、社会教育課のサポートがなくては

なりません。大勢の子どもを引き連れて、私たちのワガママに付き合うのはいつも大変なことだと思います。親でもない、先生でもない、社会教育課の方々には、私たちにとってよき話し相手でもあり、たわいのないことでも一緒に笑い合える友人のようでもあります。

私もこの3月に志布志高等学校を卒業し、福岡の大学へ進学しますが高校生クラブの経験は、これから社会に出ていく私たちにとって、きつと力となるはずです。そして、この貴重な経験をさせてくれた高校生クラブのある大崎町がますます元気で、人と人がふれあえるまち、私のふるさとであり続けてもらいたいと思います。



▲町民体育祭での「響」の演奏

## 編集後記

今世紀初めての国際博覧会、愛知万博(愛・地球博)が3月25日に開幕した。万博は、最新技術の展示と実験を目的に開かれてきたが、愛知万博は「自然の叡知」をテーマに、人類共通の課題「環境問題」を解決する方向へ転換された開催となっております。

こうした時、天変地異の大地震が世界的規模で発生しています。まさかのスマトラ島沖地震が二度発生、国内でも阪神・淡路大震災のあと、鳥取県西部地震、芸予地震、宮城県北部地震と十勝沖地震、新潟県中越地震、予想外に起きた福岡西方沖地震と、ここ数年毎年発生しています。直下型地震は、いつでもどこで起きるか予想もできない。安心・安全な災害に強い町づくりのため、町の地域防災計画は万全か、住民の意識啓発を含め我が町の備えを点検したいものです。議会、だより第95号をお届けします。町民皆様の紙面や議会に対するご意見ご感想をお待ちしております。

広報編集委員一同